

(社)日本コンクリート工学協会四国支部
「四国のコンクリート構造物のアセットマネジメントに関する研究委員会」

第3回委員会議事録(案)

1. 日 時：平成20年3月14日(金) 13:30～17:00

2. 場 所：ロイヤルパークホテル高松

3. 出席者：氏家勲(愛媛大学)、大内雅博(高知工科大学)、水口裕之(徳島大学)、七條浩一(徳島県)、光中博彦・湊一夫(JR四国)、牛島栄(株)ティーネットジャパン)、横田優(株)四国総合研究所)、群政人(株)フジタ建設コンサルタント)、草薙悟志(株)四国技術コンサルタント)(10名)

4. 議事

1)大内委員より、高知県の職員橋梁点検マニュアル(案)が紹介された。高知県の管理する橋長15m未満の橋梁は1647橋ある。これら橋梁の点検のためのマニュアルであり、まだ、アセットマネジメントに関しては検討中のことである。

2)光中委員より、JR四国における鉄道構造物の維持管理の概要について説明があった。JR四国が管理している橋梁は2644橋ある。JR四国では列車の運行を保持するために、予防保全方式主体構造物の維持管理を実施している。全てを予防保全で維持管理すると、予防保全は比較的lowコストで機能回復できるので、特に維持管理コストが経済的なるという組み合わせはないと考えられる。

3)横田委員より、外部塩分を受ける海岸部鉄筋コンクリート構造物の腐食劣化進行予測モデルの開発について説明があった。提案の予測モデルを用いると外部からの塩化物イオンが侵入する鉄筋コンクリート構造物の腐食ひび割れ発生後も含めた進展期から加速期以降の鉄筋腐食量変化を予測することが可能であり、最適な保全対策を選定する際に提案のモデルは最適な補修時期などの情報を与えることができる。

4)次回について

6月頃を予定。話題提供としては徳島県の取り組みを予定している。次回は点検方法ではなくアセットマネジメントのやり方などに関する議論をしたい。

(氏家)